

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	福島区
学 校 名	大阪市立海老江東小学校
学校長名	黒川 祥治

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立海老江東小学校では、第6学年 52名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、大阪市平均を約4ポイント、全国平均を約3ポイント上回っている。特に思考力判断力表現力において、全国平均を4ポイント、市平均を6ポイント上回っている。算数の平均正答率は、大阪市平均を約6ポイント、全国平均を約5ポイント上回っている。3観点別では、特に思考・判断・表現において大阪市平均や全国平均を約5ポイント上回っている。理科の平均正答率は、全国平均を約3ポイント、大阪市平均を約5ポイント上回っている。3観点別では、特に知識技能において大阪市平均や全国平均を約4ポイント上回っている。無解答率(問題に解答していない割合)は国語、算数、理科3教科とも全国平均・大阪市平均よりも低く、粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

「主体的対話的で深い学び」をめざし、この2年間取り組んできている。  
 [国語] 国語の指導に関しては「読む、聞く、話す」などの事項で成果が少しずつ表れてきた。「話すこと聞くこと」の事項「読むこと」の事項で全国平均を大きく上回っている。  
 課題は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。昨年課題があった「読むこと」「書くこと」について改善の傾向が見られる。  
 [算数] 少人数指導や習熟度別少人数指導、「主体的対話的で深い学び」をめざす指導の研究成果が少しずつ表れてきている。「図形」の領域、「データの活用の領域」で全国平均を大きく上回っている。課題は、「変化と関係」の領域である。  
 [理科] 「生命を柱とする領域」、「エネルギーを柱とする領域」で健闘している。課題は、「粒子生命を柱とする領域」である。

質問紙調査より

「読書が好きですか」「新聞を読んでいる」という項目は、取組の成果があり、肯定的な回答が、大阪市平均、全国平均を上回っている。「早寝早起き朝ごはん」に関する項目は、「あてはまる」の回答が例年継続して全国平均や大阪市平均を上回っているが、「朝ごはん」についてどちらかといえば食べない」が若干増加傾向にある。「学校に行くのが楽しい」「将来の夢や目標を持っている」「友達と協力するのは楽しい」の項目で、全国平均や大阪市平均に比べて、回答の割合が高くなっている。  
 課題としては、「携帯やスマホについて家人との約束を守っていますか」「自分でやると決めたことはやりとげるようにしていますか」等の項目について肯定的な回答の割合が全国平均等に比べて低い。取組が必要である。

## 今後の取組(アクションプラン)

①ICT機器を効果的に活用し、主体的で対話的な学びを推進する。②導入された1人1台PC、デジタル教科書、デジタルドリルをフルに活用し、児童が興味関心を高め、ICT機器を活用した授業や個別最適化を目標とした学習を展開するための指導方法を研究する。③授業の初めに学習課題を明確に、課題解決の時間を十分に確保する。授業終末の振り返りで児童が「わかったこと、できたこと」を実感できるようにする。④根拠を明らかにしながら自分の考えを発表する場面設定を行う。⑤これまで取り組んできた自主学習ノートの取組をさらに充実させる。⑥一問多答となる発問など「主体的対話的で深い学び」の学習を指導を多く取り入れる。⑦総合的な学習や体験的な学習で自分で課題を見つけ探し解決する学習の機会を多くし、達成感や成就感を味わうことができる機会を多くする。⑧カリキュラムマネジメントを実施しながら、教科横断的に知識を活用する学習を展開できるようにする。